

# ジョン・ケイ銅版画展

## 古都エディンバラ オールドタウンの畸人たち

期 間：2008年3月17日（月）～4月30日（水）

場 所：京都ノートルダム女子大学図書館

入場無料

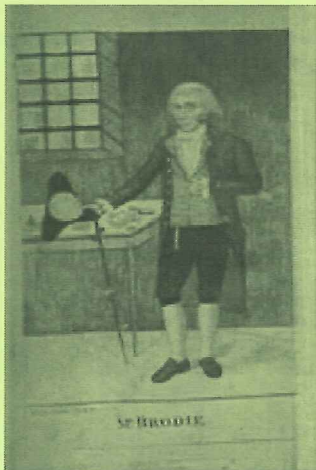
本展は、京都ノートルダム女子大学人間文化学科教授 服部昭郎（はっとり あきお）の平成19年度科学研究費補助対象研究「ジョン・ケイの研究：カリカチュアとして描かれた古都エディンバラの文人墨客たち」の研究成果の一端を紹介するものです。

ケイは18世紀後半エディンバラのオールドタウンに暮らしていた様々な人たちの銅版画ポートレイトを多数遺しました。今日ではエディンバラにおいてもケイの作品を知る人は決して多くありませんが、近年一部の研究者をはじめとして次第に人々の関心を集めるようになってきました。日本においてもこれまでケイの銅版画はほとんど知られておらず、本展は少なくとも展覧会としては最初ではないかと思われます。

ケイの銅版画が優れた芸術作品かどうかについてはいろいろ意見のあるところですが、中世の面影を遺すオールドタウンの目抜き通りで理髪店を営みながら道行く人々を注意深く観察し、その姿を銅版画として描いた彼の作品は18世紀後半古都エディンバラに暮らした人々に関する興味深い歴史資料であると言えます。

ケイは生涯に約900点ほどの作品を遺したと考えられていますが、そのうちの329点の銅版画が、ヒュー・パットンによって四折二巻本『故ジョン・ケイ銅版画集 --肖像とカリカチュア--』として1837年から1838年にかけて出版されました。今日遺されている四折二巻本はケイの銅版画とジェームズ・パターソンが執筆した人物紹介テキスト（ケイの描いた人々それぞれにまつわる逸話）から成立しています。このパターソンが遺した夥しい数の逸話もケイの銅版画同様当時のエディンバラの人たちやその暮らしを知る上で貴重な歴史資料です。

今日のイングランドやスコットランドでは四折二巻本の多くが無惨にも解体され、銅版画だけが古書市場に出回っているのが現状です。本展ではそれらの銅版画25点をご紹介します。



### ディーコン・プロディ像 1788年 19.0×11.5

R.L. スティーブンソンの『ジキル博士とハイド氏』のモデルとなったと考えられているディーコン・プロディ像。プロディは家具職人組合長として町の名士のひとりであったが、窃盗団の一味としての顔を裏面に持った人物でもあった。

その他、経済学者アダム・スミスなど多彩な人々が登場します。

### 公開講演会

### 古都エディンバラの銅版画家ジョン・ケイについて

講師：京都ノートルダム女子大学 人間文化学科 教授 服部 昭郎

日時：平成20年4月19日（土曜日） 13:00～16:00

会場：本学 マリア館 ガイスラーホール

問い合わせ先：教務学事課 TEL 075-706-3745 （事前申込不要）